

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名	山地治山		路河川名等	—							
事業毎の通番	8	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	栃平(とちだいら)						
事業目的	平成27年3月に林道烏川線への融雪に起因した落石・土砂崩落が発生した。当林道は登山客を中心とした観光道路であり、近接する烏川には発電用の取水施設が存在することから、再被災防止のため、落石予防工を実施し、保全対象の安全を確保する。										
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	森林法							
関連する事業、計画等	補助林道事業(改良) 林道烏川線										
保全対象・範囲 受益対象・範囲	林道100m 発電用取水施設1棟										
着手年度	平成28年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)						
完成年度(見込み)	平成30年度	費用対効果	1.07	国庫	その他	県債	一般財源				
全体事業内容(主な工種)	山腹工0.36ha 落石予防工 3600㎡			180,000	90,000	81,000	9,000				
年度事業内容(主な工種)	山腹工0.11ha 落石予防工 1100㎡			60,000	30,000	27,000	3,000				
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	林道100m、発電用取水施設1棟の保全									
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の重要観光路線の安全・安心の確保、森林景観の維持保全									
評価の視点	必要性	○人家戸数:	0戸	○公共施設数:	2箇所	○災害時要援護者関連施設の有無:	なし	○保安林・林業用施設:	60%	評価	B
	重要性	○過去の災害履歴:	崩壊地の一部に過去に施工した土留工あり	○交通遮断による地域経済への影響:	蝶ヶ岳、常念岳への登山道で重要な観光道路	○地域防災計画上の位置付け:	位置づけあり	評価	A		
	効率性	○費用便益比(B/C):	B/C=1.07	○事業期間:	3年間(H28~H30)	○工法等の比較検討:	検討あり	○流域の総合調整:	砂防管理者と調整中	評価	B
	緊急性	○流域の地形、地質:	二畳紀 粘板岩・砂岩・礫岩	○平均渓床勾配(平均山腹勾配):	44°	○下流の堰堤等の整備状況:	治山施設なし	○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:	山腹崩壊 A 467-22 栃平	評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:	関係者(安曇野市)を中心に周知	○地域の取り組み:	治山要望と共に林道改良を計画中	○地域の合意形成:	治山事業について合意形成が図られている	○住民との協働:		評価	B
	部意見	平成27年3月に落石が発生し、調査の結果不安定な転石群が判明したため、他事業と連携して対策工を行う必要がある	行政改革課意見	斜面には不安定な岩石群が存在している。保全対象には林道、発電用取水施設があることから、重要性、緊急性が認められる。	評価結果	○	総合評価	B			

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)	 	
	【整備の必要性がわかる状況写真等】	  	
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成27年3月に融雪に起因した落石・土砂崩落が林道烏川線上部の山腹で発生した。崩壊地直下には林道と発電用の取水口が存在している。林道については北アルプス登山口へ通じる安曇野市の重要な観光路線となっているほか、上流にある砂防ダムの管理用道路としても使用されている。また烏川では発電のため取水していることから落石や崩壊土砂の流入は防止する必要がある。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	観光及び砂防の管理道路として使用されていることから通行止めにはできないため早期の対策が望まれている。林道の管理者である安曇野市は崩壊後早期に土砂の撤去を実施している。併せて林道を通行する車両等への安全確保のため大型土のうを設置し落石対策を施している。	
	③事業説明等の経緯	今後、事業計画が確定次第、具体的な工事内容について地権者及び地元関係機関への説明会を開催する。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	烏川を含む崩壊地の南側一帯は砂防指定地(保安林との重複指定)であるため、砂防管理者と調整中。林道事業と連携して保全対象への落石を防止するように計画調整済み。	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	崩壊箇所周辺は県外からの登山客や温泉宿泊客が多く景観配慮を求められている。そのため、落石予防工等により、現存する立木を極力伐採せずに斜面の安定化を図る。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	崩壊箇所周辺には登山客が利用する温泉・宿泊施設が存在することから、登山客数がこの地域の観光を支えている。山腹の安定は地域の活性化と密接に関係しており、早期の安定化が必要である。	
	⑦その他	なし	
		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36-18-18.5 東経:E 137-47-19.2